（別紙4-1）

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0174100768		
法人名	有限会社　おおいし		
事業所名	グループホーム　くつろぎ　1階		
所在地	釧路市愛国西2丁目7番10号		
自己評価作成日	令和 元 年 12 月 30 日	評価結果市町村受理日	令和 2 年　3 月 17 日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0174100768-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町５丁目２－３５コーポラスひかり１０６号
訪問調査日	令和 2 年　1 月 24 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームは入居者の自宅であるという考えから、当たり前の毎日を送って頂ける様に努めている特別に何かをしているということは無く、入居されている方の言動をくみ取り、急にケーキを食べに外出したり買い物に行ったり、ドライブに行ったりとしている。天気が良ければ庭で昼食にしたり、お好み焼きパーティーや鍋パーティー焼肉パーティー等と銘打って入居者と職員が一緒に楽しんでいる。笑顔が一番と考え常に笑い声に溢れているホームです。喫煙や飲酒についても禁止にはしない。笑ったり、泣いたり、怒ったり、ふくれたりと人として当たり前の感情を大事にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当事業所は商圏の中にあり、近くに病院、公園等がある利便性の良い居住環境にある。木造2階建て2ユニットのホームは、共用空間の居間は日差しが入り明るく、壁にはシルバー展に出展した作品やスナップ写真、季節感ある飾りつけをして家庭的な雰囲気となっている。温度や湿度を保つために加湿器や空気清浄器を設置して定期的に測定しながら居心地よく過ごせるよう工夫し、対面式のキッチンで野菜の刻む音やみそ汁の匂いが流れ、利用者は長椅子などで寛いでいる。利用者は、町内の一員として清掃などの地域行事に参加したり、近隣の店に買物に出かけ挨拶を交したり、事業所の夏祭りに地域住民等が大勢参加して交流を深めている。また、高校の文化祭に利用者の作品を出展して 見学に行ったり、高校のインターンシップを受け入れて認知症の理解に努めている。昨年の火災（原因不明）は不幸だが、普段の訓練が活かされ迅速な対応ができる等の確認ができ、また、職員間や日頃から行政との関係が築かれ、ホーム長の人脈で利用者全員が他の施設に受け入れてもらえ、他の施設との連携が心強いものと認識するようになった。管理者と職員は日常の生活の中で利用者の思いを捉え一人ひとりを尊重し、プライバシーを守りながら笑顔で楽しく生活が出来るよう支援している。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

（別紙4-1）

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念は見やすいところに掲げてあり、共有はしているが実践については足りない面も多々ある。	事業所理念「明るく・楽しく・健康で・地域と共に」をフロアに掲示している。会議 の中で管理者と職員は理念について確認し合い、共有化を図ってケアに活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会しており、古紙回収等への参加や、行事への相互参加、ごみステーション清掃、近くのコンビニでの買い物、近隣の人とのつきあい等日常的にしている。	町内会に加入し、町内の清掃活動等に参加して交流している。近隣のコンビニと馴染みになったり、住民に会うと気軽に挨拶を交わすなど、住民との良好な関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での報告や、学生インターンシップの受け入れをしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、ホームの現状等を報告しているが意見等は少ない。	2ヶ月に1度定期的に開催している。地域包括支援センター職員、町内会、利用者家族などが参加し、事業所の現状や行事予定等の報告をして、意見や要望を得て運営に反映させている。議事録は詳細に記載している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主にホーム長が担当しているが、解らないことがあれば直ぐに担当者に連絡をしている。今回、火災になった時にも市の職員も動いてくれていた。	市職員や地域包括支援センター職員とは、介護保険の更新や生活保護手続き、医療機関利用などについて相談し助言を得ている。市役所には管理者が月に1度は出向いて、普段から担当者と協力関係が築かれている。火災(ぼや)の時も担当者の協力を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	直接的な拘束は勿論だが、言葉による拘束をしないよう互いが注意しあっている。玄関の施錠は防犯上必要な時間だけとし、入居者の出入りも自由となっている。	身体拘束に関する委員会が2カ月に1度開催されている。職員は会議の中で具体的なケースを取り上げて身体拘束の内容を理解し、拘束の無いケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	改めて学ぶ時間を設けてはいないが、マニュアルは作成してある。入居者の身体確認や入居者の言葉からも虐待が無いかを互いに注意しあっている。職員の入れ替えも多くなったので研修会を開いた方が良いと思われる。		

グループホーム　くつろぎ　1階

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方も入居されているが、制度についての理解が不足しているので学ぶ機会を設けると良いと思われる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はホーム長と他1名の職員が同席して2名で行い、一つ一つ読み上げながら時には詳細に説明して理解や納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員に見えない玄関前に意見箱設置している。来訪時には必ず声をかけて話を聴くようにしている。	日々のケアから利用者の意見や要望を把握し、家族からは来訪時や電話で意見等を得て、出された意見や要望は連絡ノートに記載して職員全員で共有している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションをとり、意見交換等がしやすいと思われるが、個人面談等の機会を設けると良いと思われる。	職員は日々の業務で管理者に意見や要望などを云え易い環境にあり、運営に反映できるような対応を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当の支給や、短時間勤務・勤務日数等、個々の希望に添うようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へは出来るだけ研修内容にあう職員を勤務として参加させている。毎日の勤務中にも口頭、時には実践して育成に努めているが、育成側と育成される側とのギヤップがあり中々うまく行かない面も多々ある。年一回は最低でも内部研修を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会の研修会に参加することで交流の機会をつくれるが、職員不足もあり研修参加も減ってきている。毎年ある他施設研修に久しぶりに6名が参加して情報の収集と交換が出来た。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族や本人・ケアマネから情報を得、入居当初はかかわりを多くもち本人との信頼関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時や契約時等に家族の想いを引き出すようにしており、来訪時には常に声をかけて関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護用ベッドの実費ではあるがレンタルやケア輸送等について説明しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の持っている力に応じて茶碗拭き、洗濯物たたみ、草取り等のお手伝いをお願いしたり、料理方法等を教えて頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の通信でご本人の状態を知って頂き、来訪時には常に話をし、職員では対応できない事柄もありご家族へお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	隣家の人や友人との関係が途絶えないようにはしているが、だんだん遠のいてきていることが多い、来訪された方にはいつでも来て欲しいことを伝えている。	買い物に行ったり、美容室など馴染みの場所への外出は家族が同行したり、職員も同行する事もある。知人・友人が来訪の場合は、落ち着いてゆっくり過ごせるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し時には一緒に行動して頂いたり、時には離して別々のところで過ごして頂くなど常に留意している。食席も変更したりしている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族が相談事で来訪されたこともある。退去後にお見舞いに行ったり、命日にお花を届けたりしたこともある。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常日頃からコミュニケーションに努め、情報を収集し職員間で共有しながら時にはケアプラン・申し送りノート等使用して本人にとって何が良いのかを模索している。	日々の関わりの中で出来るだけ声かけをして、何気ない会話の中から思いを把握するようにしている。日頃の言動からも希望や意向を汲み取ったり、家族からの情報を参考にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に担当ケアマネやご家族からの情報を収集しファイルし、誰もが見ることが出来るようにしており、入居後も細かな情報を聞き取るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル・排泄・飲食摂取量・睡眠・本人の言動等を記録し申し送りや会議等で情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常日頃から本人にあった対応を話し合い、時には試してみて結果を会議で話し計画作成担当者との評価会議を経て介護計画に盛り込むこともある。	利用者や家族の思いや意向を把握し、より具体的な介護計画を立案し、会議等で話し合い現状に即した介護計画を作成し家族の同意を得ている。心身の状態に変化があった際には、その都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記載しやすい様に記録用紙も工夫して何度か変更しているが、記載忘れも多々ある。計画作成者が口頭で聞き取り等をしていることもある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の訪問看護を受け入れ連携したり、訪問美容の受け入れ、通院介助、介護用ベッド利用等の支援もその都度している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのコンビニでの買い物、通っていた理容室、園児や学生との交流、学校の文化祭への作品展出品等している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の継続を勧め、口頭や手紙等でも状態についての説明、質問等している。時には往診医への変更も支援している。	本人、家族が希望するかかりつけ医への受診を支援している。家族が付き添いできない場合は職員が同行している。訪問看護師が定期的に利用者の健康管理を実施している。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問看護師や個別の訪問看護師来訪時には状態を説明したり質問したり助言を受けたりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院者が出た場合は、職員がかわるがわる顔を出して本人の状態の把握に努めたり、看護師との情報交換等をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には表面的な話をし、状態変化に伴い段階を経て終末期の対応について話し合いをしている。	入居時に重度化した場合における対応の指針に基づき、本人や家族へ説明し同意を得ている。重度化した場合は、医師に相談助言を求めながら今後の予測と方針について、段階毎に家族等に看取りの意思確認を行うこととしている。看取りの実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは作成しているが定期的な研修はしていないので実践力は無い職員が多いと思われる。今後定期的な研修をした方が良いと思われる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2～3回の火災の避難訓練を行っているが水害時の訓練は行っていない、地域との協力体制については不十分である。	火災訓練は年2回以上実施している。昨年、夜間に2階の調理室の床より煙が出て避難を開始したが、火の発生はなく煙への初期消火で鎮火した。現在でも原因不明できわめて珍しいケースと消防署から説明されている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的な事柄ではあるが、職員の入れ替わり等もあり出来ていない時や出来ていない人もいると思われ勉強会を設けた方が良いと思われる。	一人ひとりの人格尊重と誇り・プライバシーを損ねない声かけに注意を払い、入浴時の着脱やトイレ誘導時等で配慮しながら支援をしている。	職員の退職が続き、人・物の動きで利用者が落ち着かなかったり、不安になったりするため、接遇について研修を行うなどして、利用者に安心感を与える方策を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から衣服を選んで頂いたり、「どうする？」と尋ねるようにして自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員不足等で十分とは言えないが、個々人のペースに合わせ、ふとした言動をくみ取り予定外の外出をしたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	似合う色や好きな色等考慮しながら衣類の購入をしたり、用意してもらったりしている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	稲荷ずし、巻きずし、野菜切り、盛り付け等のお手伝いやお好み焼きを焼いたり、鍋パーティーや焼肉等をしている。食器の片付けも役割をふってお願いして行ってもらっている。	利用者と日常の会話の中から好みに応じた献立や季節メニューを取り入れながら、利用者と一 緒に調理や片付けを行なっている。行事食やお好み焼き、鍋パーティー等を行い、食事を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日誌に記録するようにしており体調変化に留意している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けをして歯磨きをしてもらっている。義歯については毎晩洗浄剤の使用をしている。食後にお茶を出すことも多い。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツ・パッド利用者も全員トイレ案内しており、その人にあった時間間隔での声掛けをしている。	排泄パターンを把握し、時間毎に、あるいは仕草を観察しながら声かけ、トイレ誘導して排泄の自立支援をしている。失禁時には清拭での対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヤクルトや牛乳の引用、毎日10時にバナナ牛乳の提供、運動や食材にも気をつけているが、薬に頼らざるを得ない人もいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に曜日は決まってはいるが、本人の意向を尊重し、急な入浴も受け入れている。午前・午後関係なく入浴をして頂いている。	週2回の入浴が基本だが、利用者の体調や状況を踏まえ、希望に沿っていつでも入れるよう支援している。入浴を拒む利用者にはタイミングを含め柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自立されている方が多いので、めいめいにフロアと居室の行き来をしている。只、昼夜逆転や食事の摂らない等無いようにしている。居眠りしている場合は居室へ誘ったりもしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルして誰でも見れるようにしてある。変更時等も申し送りノートに記載して共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	喫煙者には喫煙して頂いている。計算問題、塗り絵、調理等本人からの希望もあり支援をしている。毎年の餅つきの時にはあいどりをお願いする入居者もいる。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	計画した外出は勿論、入居者の言動をくみ取り、突発的な外出もしている。	高齢化に伴い、日常的な買い物や散歩に出かけたりする機会が少なくなってきているが、気分転換や外気に当たる様外出支援をしている。また、花見等へドライブする等の機会を多く作り、利用者が外へ出かけられるように支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員では無いが手持ちをしている入居者もおり、買い物時に自ら支払えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方もおられるが、電話の希望もなく、職員からの改めての働きかけはしていない、手紙の支援も現在はしていない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内に不快や混乱を招くような刺激は無い、季節感を感じられることが少ないと思われ今後工夫をしていきたい。	広い廊下と居間は明るく、対面式のキッチンからは利用者の動向を確認しながら安全安心に努めている。壁にはシルバー展に出展した作品やスナップ写真が掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ席や畳席、食席等があり、自由にされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に本人が使用していたものを置いて頂いている。仏壇があったり、冷蔵庫があったりベッドの位置やテーブルの位置等に留意しながら対応している。	使い慣れたテレビや冷蔵庫、家具や仏壇等を配置し、小物や写真を飾って居心地良く過せるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ使用中・入浴しています等の札を下げたり、居室入り口の表札を身長に合わせて掛けている。		